



本会議の様子(9月15日)

平成29年第4回9月定例会

平成29年第4回9月定例会は、8月29日に開会し、会期18日間をもって9月15日に閉会しました。

9月定例会では、9月4日及び9月5日の両日、議員16名が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に項目を整理し、2ページから8ページにかけて掲載しています。

なお、「愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会」の開催機運を高めるための取組として、9月定例会(8月29日・9月4日・15日)にえひめ国体・えひめ大会PR用ポロシャツを着用し、本会議に臨みました。

自民クラブ

伊藤 新平 議員



1 (一般質問)
市長の基本政策に対する副市長としての取組姿勢について

市長の基本政策に対する副市長の決意と行動は？

問

平成29年1月に就任した武田副市長は、就任挨拶において、市長が目指す「ワクワク度日本一の西条」の実現に向け全身全霊を注ぐ覚悟で臨むと述べられたが、これまでの間、市長の考えを商工会議所などの外部団体にどのように伝え、浸透させてきたのか。また、副市長としての役割における自己評価はどのようなものか。

答

地方創生を実現するためには、産学官に加え、地方銀行、労働組合、地元メディアとの強力かつ綿密な連携が必要である。また、「地域活力の源泉は産業にあり」との認識の下、地域産業の発展を重視してきた本市としては、とりわけ産業界との連携が最重要と考えている。更に、自身も市長と同様に「足は現場に」を実践することにより、各地域や各業界の課題などを吸収し、市長の政策を浸透させることができるものと考えている。今後も商工会議所などの協議の場には積極的に出席し、膝と膝を突き合わせながら議論を重ね「ワクワク度日本一の西条」の実現に向け、チーム西条の一員として、市長とともに必死で汗をかく努力をしていきたい。

副市長就任後の自己評価としては、決して満足のいくものではなく、市長公約の実現のため、そして「ワクワク度日本一の西条」実現のためには、まだまだがんばらなければならぬと認識している。自身が有しているのは、36年間の行政経験であることから、

その経験の下に市長を補佐するとともに、就任挨拶の際に述べたとおり、公約の実現に向け全身全霊を注ぐという強い覚悟で、今後も取り組んでいきたい。

坪井 剛 議員



1 (一般質問)
東予港港湾計画について

早急に改訂を！

東予港港湾計画

問

東予港港湾計画は、平成20年代後半を目標年次とした計画であり、あと4か月でその平成20年代も終わることから、早急に計画を改訂する必要がある。現行の計画には東ひうち地区に公共埠頭用地や港湾関連用地などを整備する計画が盛り込まれているが、現在の東ひうちにお

ける企業活動の状況を見ると、その実現は甚だ困難ではないかと思われる。代替の公共埠頭用地を具体的にどこに位置付けようとしているのかも含め、港湾計画の改訂について、いつ、どのように行っているのか、としているのか。

また、港湾計画を改訂する際には、自然との触れ合い空間や憩いの場の確保、そして瀬戸内の魅力やすばらしさを次代を担う子どもたちが再発見できるきっかけづくりとして、海釣り公園などの新設を計画に盛り込んでみてはどうか。



東予港(西条地区)